

○ラオスの紹介



ラオスは、中国・ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマーに囲まれた内陸国で、人口約738万人(2021年ラオス統計局)、面積24万km²(日本の本州とほぼ同じ面積)です。政治・経済の中心である首都ビエンチャン(Capital)と17県(Province)の18行政区域で構成され、南北に長い国土を縦断する国際河川の本川メコン川に沿って、多くの主要都市が存在します。

50の民族が暮らす多民族国家ですが、その多くが敬虔な仏教徒です。町や村には必ず寺院があり、生活に根差している仏教は、日々の参拝や托鉢、冠婚葬祭、数多くの宗教行事などに見ることができます。

町全体が世界遺産である古都ルアンパバーンなど3つの歴史遺産があり、これらを中心とした観光収入が重要な外貨獲得産業ですが、近年は経済発展も目覚ましく、日本を含めた海外企業の進出が活発になっています。



托鉢の様子

○ラオスの水事情

ラオスでは、水道普及率は全国で未だ20%台半ばであり、井戸等の小規模施設を含めても安全な水へアクセスできる割合は限られています。都市部でも普及率は80%弱で、国家計画では都市部の普及率を2030年までに90%へ上げることを目標に、公衆衛生の改善とインフラ整備の両面から上水道整備に取り組んでいます。

世界銀行、アジア開発銀行(ADB)、フランス、中国等から多くの支援が実施されており、日本も最重要ドナーのひとつとして、継続的に技術協力や資金協力を実施しています。



1964年に日本の支援で建設されたラオス初の浄水場(ビエンチャン)

○さいたま市水道局の技術協力

2002年～2005年

JICA技術協力プロジェクト：水道事業体人材育成プロジェクト

水道施設の運転・維持管理に従事する水道技術者と、水道会社のマネジメントに関わる職員の人材育成を目標とした技術協力プロジェクトを実施しました。3年間で講師育成、テキスト・マニュアル作成を実施しながら国内の研修体制を構築しました。

2006年～2008年

JICA草の根技術協力事業：配給水管維持管理技術向上

草の根技術協力事業とは、開発途上国の経済および社会の発展に貢献することを目的として、地方自治体を持つ知識や経験を活かして事業を実施するものです。ラオス国主要5都市を対象として、管路技術・維持管理部門の課長級職員に技術移転を行い、組織体制から現場の技術、統計資料作成、漏水管理・分析までを一貫して改善できるよう指導しました。

2010年～2011年

さいたま市水道局－首都ビエンチャン水道公社友好プログラム

長年にわたる技術協力によりラオスの都市水道に貢献してきたさいたま市水道局と、首都ビエンチャン水道公社において、友好関係を維持し向上させる目的で、今後の双方水道事業を担う中堅職員の交流研修を行いました。

2012年～2017年

JICA技術協力プロジェクト：水道公社事業管理能力向上プロジェクト(MaWaSU)

本プロジェクトは、ラオス国における水道公社の中期的視野に基づく事業管理能力を強化する体制が整備されることを目的として、首都ビエンチャン水道公社、ルアンパバーン県水道公社、カムアン県水道公社をパイロット水道公社として、全国の水道公社を対象に実施しました。また、さいたま市だけでなく、埼玉県企業局、川崎市、横浜市からも幅広い分野で専門家が派遣され、連携を取りながら活動を実施しました。

2018年～2023年

JICA技術協力プロジェクト：水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)

本プロジェクトは、前身の「水道公社事業管理能力向上プロジェクト」終了後も課題となっている重要分野に取り組むもので、水道行政と水道公社双方の能力強化のため、水道行政を中心とした制度面も含めた基盤整備と能力強化から、パイロット水道公社による水道事業改善の全国展開活動まで、多岐にわたる内容について技術支援を実施しました。

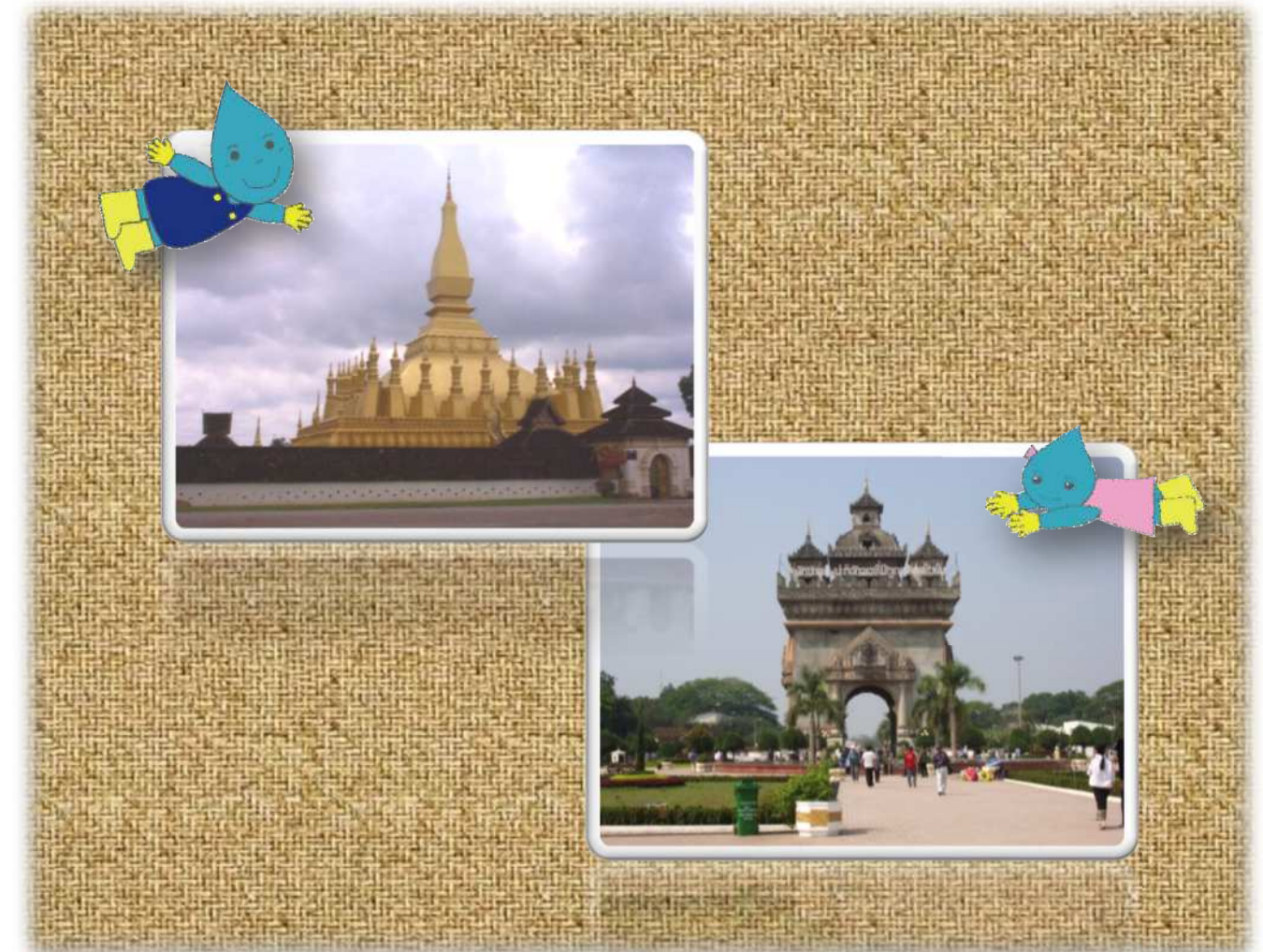
2018年～2023年

JICA草の根技術協力事業：水道公社における上水道管路維持管理能力向上支援事業

本事業は、ラオス国からの現場技術への協カニーズ、特に無収水削減に資する支援を望む声が非常に大きかったことから、「水道公社事業管理能力向上プロジェクト」の成果を生かし、「水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)」との連携も視野に入れ、漏水を削減するため、主に給水管をターゲットに3つの対象水道公社の水道管路の維持管理能力と管理体制の強化を目指して技術支援を実施しました。

水道事業を通じて互いの人材を育てる

～さいたま市水道局のラオスとの関わり～



上：ラオスのシンボル タートルアン／黄金の塔
下：ラオス人憩いの場 バトゥーサイ／凱旋門

さいたま市水道局



さいたま市水道局のラオスへの技術協力のあゆみ



～ 1990年代 技術協力の始まり ～

1992 国際厚生事業団 水道事業調査 ※国際協力の始まり

JICA地下水開発計画事前調査

1993 JICA地下水開発計画基本設計調査

1994 JICA上水道開発政策に係る
短期専門家派遣 (6か月) ※初の専門家派遣

1999 JICA給水計画策定に係る
短期専門家派遣 (10か月)

2000 国際厚生事業団 水道施設拡張調査

2002～2003 ・JICA上水道拡張整備計画調査

2004 国際厚生事業団
南部地方都市水道整備計画調査



国際厚生事業団
水道事業調査



地下水開発計画
事前調査

～ 2000年代 JICAプロジェクトへの本格参加 ～

◆ J I C A 技術協力プロジェクト(2002～2005)

～水道事業体人材育成プロジェクト～

・長期専門家派遣 1名
・短期専門家派遣 3名
(管路技術,無収水管理,配水管圧力管理)

・ワークショップ講師派遣 1名

・研修員受入 5名



分野別の技術マニュアル
(ラオス語・英語)

◆ J I C A 草の根技術協力事業(2006～2008)

～配給水管維持管理技術向上～

・フォローアップ派遣 6名

・ファイナルセミナー講師派遣 2名

・研修員受入 6名



研修員受入
(配水管接合実習)



現地ワークショップ
(漏水探知デモ)

2009

JICA地方水道人材育成上水計画
に係る長期専門家派遣 1名

◆さいたま市水道局-首都ビエンチャン水道公社

友好プログラム(2010～2011)

職員派遣 4名

研修員受入 4名



友好プログラム覚書署名

◆ラオス国の水道分野の強化に向けた
協力に関する覚書締結 (2011～2016)

⇔首都ビエンチャン水道公社

◆ラオス国水道公社との水道分野の強化に向けた

協力に関する覚書締結

(2016～2021→2023まで延長)

⇔首都ビエンチャン水道公社

⇔ルアンパバーン県水道公社

⇔カムアン県水道公社



ラオス国3水道公社との
覚書締結署名

～ 2010年代-現在 覚書締結による協力関係の深化 ～

2011 ラオス水道セクター向上セミナー開催 (首都ビエンチャン)

2012 さいたま市水道国際展開セミナー開催 (さいたま市)

2013 ラオス-日本水道セミナー開催 (首都ビエンチャン)

2014 第2回ラオス-日本水道セミナー開催 (首都ビエンチャン)

2015 日本水道協会全国会議への招聘 (さいたま市)



水道国際展開セミナー



ラオス-日本水道セミナー

◆ J I C A 草の根技術協力事業(2018年6月～2023年3月)

～水道公社における上水道管路維持管理能力向上支援～

職員派遣 33名

研修員受入 11名

オンライン活動



給水管接続現場における
技術指導(耐圧試験)



本邦研修の様子
(漏水調査)

◆ラオス国水道公社との水道分野の強化に向けた

協力に関する覚書締結 (2023～2028)

⇔首都ビエンチャン水道公社

⇔ルアンパバーン県水道公社

⇔カムアン県水道公社



ラオス国3水道公社との
覚書締結署名

◆ J I C A 技術協力プロジェクト(2012～2017)

～水道公社事業管理能力向上プロジェクト(MaWaSU)～

長期専門家派遣 1名

短期専門家派遣 22名

研修員受入 52名



小学校における水道教室



研修員受入
(配水管施工現場視察)

◆ J I C A 技術協力プロジェクト(2018～2023)

～水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)～

長期専門家派遣 2名

短期専門家派遣 6名

研修員受入 29名

オンライン活動



ラオス水道協会設立記念式



施工現場における技術指導
(施工計画の確認)

◆ J I C A 技術協力プロジェクト(2024.2～2028.2)

～水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU3)～

長期専門家派遣 1名

※2024年3月時点

※現在進行中のプロジェクト



公共事業運輸省水道局における
キックオフミーティング